

【分野】 果 樹

モモの春季の樹勢衰弱・枯死対策

【要約】

モモの若木で増加傾向にある春季の樹勢衰弱・枯死の回避には、主幹部の保護と耐凍性台木が有効です。

【背景】

暖冬により耐凍性が低下し、早春に凍害を受けたと見られるモモの若木の樹勢衰弱や枯死（図1）が増加傾向にあり、生産量や生産意欲の低下が懸念されることから、早急な対策が求められています。そこで、被害が発生しやすい主幹部の保護対策と耐凍性台木の検討を行いました。



図1 凍害による枯死樹

【結果】

1 主幹部の保護資材の開発

凍害対策として、モモの主幹部に稲わらを巻きつける方法が有効ですが、近年は稲わらの入手が難しくなっています。そこで、農業研究所と森林研究所が共同で新しい主幹部の保護資材※（商品名：ホワイトスネーク）を開発しました（図2）。この保護資材には、稲わらと同等の保温効果があり、凍害発生抑制に有効でした（図3）。 ※実用新案登録第3200112号



図2 開発した保護資材(左)と、主幹部への巻き付け後の様子(右)

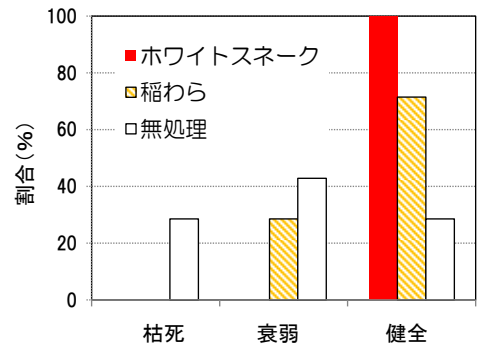


図3 保護資材の凍害抑制効果

2 耐凍性台木の利用

凍害に強いとされる「ひだ国府紅しだれ」（図4）を台木として導入し、その特性を調査しました。その結果、「ひだ国府紅しだれ」台木に接ぎ木した樹では、慣行台木のものより、凍害が発生しにくいことが明らかとなりました（図5）。また、「ひだ国府紅しだれ」台木に接ぎ木した「清水白桃」は、慣行台木と比べて、樹勢がやや弱いものの、果実品質は同等かやや優れ、



図4 ひだ国府紅しだれ

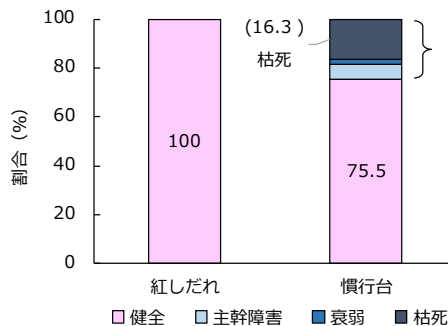


図5 「ひだ国府紅しだれ」台木の凍害抑制効果

「ひだ国府紅しだれ」が有効な台木であることが明らかとなりました。

担当：農業研究所 果樹研究室 (086-955-0276)

研究課題名：気象変動に対応した春季のモモの樹勢衰弱・枯死回避技術の確立 (H24～H28)
温暖化に起因する果樹類生育障害の対策技術の現地実証 (H29～H30)